

# FUJITSU Server PRIMERGY RX2530 M1

## ご使用上の留意・注意事項

FUJITSU Server PRIMERGY RX2530 M1 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2019年10月  
富士通株式会社

### 1. UEFI モードについての留意

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況、留意事項に関しては、下記リンクをご参照ください。  
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

### 2. BIOS、ファームウェアの適用について

BIOS、ファームウェアは随時、新版数がリリースされます。このため、タイミングによっては、ご購入時、もしくは保守交換による修理後には BIOS、ファームウェアが最新でない場合があります。その場合にはアップデートツールを用いてアップデートを行ってください。最新版は下記ダウンロードページを確認してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

### 3. CPU スロットリングのログについての留意

電源 1 を活性交換した際、システムイベントログ(SEL)に CPU スロットリングのログが記録されますが、影響軽微のため、無視してください。

### 4. SMASH-CLP(\*1)ご使用についての留意

SMASH-CLP を用いて電源を Off にした場合、電源 Off のアクションが SEL に記録されません。

※iRMC FW7.69F 以降でこの問題が修正されています。

(\*1) System Management Architecture for Server Hardware Command Line Protocol

### 5. USB 設定について

Red Hat Enterprise Linux をご使用の場合、USB を USB2.0 で使用する必要があります。

BIOS 設定の「Advanced」-「USB Configuration」-「xHCI Mode」を「Disabled」に設定してください。USB3.0 で使用した場合、オペレーティングシステムが停止する場合があります。

### 6. Red Hat Enterprise Linux7 ご使用時の設定

Red Hat Enterprise Linux 7 をご使用の場合、カーネルパラメータへ

「intel\_idle.max\_cstate=0 processor.max\_cstate=0」を追加してください。追加せずに使用した場合、稀に予期せぬリブート等の現象が発生する場合があります。

※ ServerView Installation Manager V11.15.01 以降でインストールを行った場合、本対応は不要となります。

## 7. ServerView Operations Manager、ServerView Agents のインストールについて

本装置で 64bit Linux OS を使用している環境に、ServerView Operations Manager V7.00 / V7.01(SVOM)、ServerView Agents V7.00 / V7.01 (SVA) をインストールする場合、以下の点にご注意ください。

64bit Linux OS 上では SVOM または SVA のどちらかしかインストールすることができません。

インストールを行おうとすると以下ようになります。

- SVOM がインストールされている環境では SVA はインストールできません。

- SVA がインストールされている環境では SVOM がインストールできません。

そのため、SVA をインストールして本装置の監視を行う場合、SVOM は V7.02 以降をご利用ください。

※ SVOM V7.02 以降と SVA V7.00 / V7.01 を組合せて使用する場合、先に SVOM がインストールされていると SVA のインストールが行えません。SVA をインストール後、SVOM V7.02 以降をインストールしてください。

## 8. ポート拡張オプション(10GBASE-Tx2)(PY\*LA3A2U)ご使用上の留意事項

本カードは 10G/1G/100Mbps での接続速度に対応しておりますが、1Gbps のスイッチ装置と接続する場合、リンクアップに時間がかかること(~1 分)や、オートネゴシエーションでは 100Mbps でリンクアップすることがあります。10Gbps で接続の場合は、10GBASE-T 規格に対応したスイッチ装置に接続してください。また、1Gbps で接続の場合は、1000BASE-T 規格に対応したポート拡張オプションもしくは LAN カードをご使用ください。

## 9. Linux 環境におけるポート拡張オプションの制限事項

Linux 環境では、以下のポート拡張オプションのポートにおいて、通信のスループット性能が期待値より 50%程度低くなります。

型名	製品名	ポート番号
PYBLA302U	ポート拡張オプション(1000BASE-Tx2)	ポート 2
PYBLA304U	ポート拡張オプション(1000BASE-Tx4)	ポート 3、4

※CNA FW10.2.405.33 以降でこの問題が修正されています。

## 10. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008 R2 をご使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

- ・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。  
2018 年 8 月時点では、以下の URL から検索可能です。  
<http://support.microsoft.com/?ln=en-us>
- ・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。  
OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

- (1) デバイスマネージャを起動します。管理者としてコマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。  
set devmgr\_show\_nonpresent\_devices=1  
start devmgmt.msc
- (2) 非表示デバイスを表示可能にします。  
デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。
- (3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。  
色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

## 11. オンボード SATA コントローラご使用上の留意事項

本装置はオンボード SATA コントローラ(4 ポート)を 2 つ保持しております。それぞれ「sSATA」「SATA」という名称で表示され、下記 BIOS 版数でご利用いただけます。

コントローラ種別	BIOS 版数
オンボード SATA コントローラ	全版数
オンボード sSATA コントローラ	1.16.0 以降

また、オンボード SATA コントローラにて、iRMC(リモートマネジメントコントローラ)によるエージェントレスでの内蔵ストレージ監視を行う場合は、iRMC7.73F 以降の適用が必要となります。

## 12. メモリご使用に関する留意事項

- (1) 本装置にメモリ-32GB(32GB 2133 RDIMM×1) (PY\*ME32SB)を搭載する場合は、BIOS1.16.0/iRMC7.70F 以降の適用が必要となります。
- (2) 本装置にメモリ-64GB(64GB 2133 LRDIMM×1)( PY\*ME64EA)を搭載する場合は、BIOS1.22.0/iRMC7.82F 以降の適用が必要となります。

## 13. UEFI モードでの FC カードのご使用に関して

FC カードを UEFI モードでご使用、かつ BIOS 設定で FC カードが挿入されたスロットの Option ROM Configuration 設定を無効にされていた場合、ネットワークインベントリより WWNN 及び WWNP 情報が取得できません。UEFI モードで FC カードをご使用の場合は、BIOS 設定上で Option ROM Configuration 設定を有効にして使用してください。

## 14. リモート接続 (SSH) 経由でのシャットダウン、再起動に関して

ServerView Agentless サービスご利用時に、SSH/Telnet 経由のリモート接続で、Graceful Power Off (Shutdown) 及び、Graceful Reset(Reboot)はご利用いただけません。本操作は iRMC S4 Web インターフェース経由で可能です。

※iRMC FW7.82F 以降でこの問題が修正されています。

## 15.2.5 インチ PCIe SSD(PY-BS08PA / PYBBS08PA / PY-BS16PA / PYBBS16PA / PY-BS20PA / PYBBS20PA)ご使用時の留意事項

2.5 インチ PCIe SSD (PY-BS08PA / PY-BS16PA / PY-BS20PA)を新規に取り付ける際は、システムのシャットダウンを行ってください。なお、BIOS 1.22.0 以上を適用していただくことで、運用中の取り外しや、同一製品との交換は可能です。

## 16. SAS コントローラカード (PY-SC3FA / PYBSC3FA)ご使用時の留意事項

SAS コントローラカード(PY-SC3FA/ PYBSC3FA)をご使用の場合は、iRMC7.82F/SDR3.04 以降の適用が必要となります。

## 17. コンバインド・ネットワーク・アダプタ(PY\*CN302(L))ご使用時の留意事項

コンバインド・ネットワーク・アダプタ(PY\*CN302(L))をご使用の場合は、POST (Power-On Self-Test: 電源投入時自己診断)中に、ブープ音ともに数秒間、下記の POST エラーメッセージが表示される場合があります。本エラーによる機能への影響はありません。また、本エラーメッセージはシステムイベントログ(SEL)に記録されません。

```
POST Error : Controller BIOS version mismatch
Controller #0 Version : v10.2.405.xx (←CNA コントローラのファームウェア版数が表示されます)
Controller #1 Version : v10.2.405.yy (←CNA コントローラのファームウェア版数が表示されます)
Please update all OneConnect controllers to the same firmware version
```

## 18. iRMC S4 のご使用上の留意・注意事項に関して

その他、iRMC S4 に関するご使用上の留意・注意事項については、「iRMC S4(Integrated Remote Management Controller)ご使用上の留意・注意事項」をご確認ください。本留意・注意事項は下記リンクから、ご使用の機種を選択し、各サーバ本体の個別のマニュアルより参照いただけます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

## 19. 「オペレーティングマニュアル」および「アップグレード&メンテナンスマニュアル」の補足事項について

ODD のモデルによってはアクセス表示ランプが搭載されていない場合がありますが、問題はありません。



(例)ODD アクセス表示ランプ有りの場合



(例)ODD アクセス表示ランプ無しの場合

## 20. ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY\*FC211(L))、Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY\*FC212(L))をご使用時の留意事項

ファームウェア版数が 3.29 よりも古い版数が適用されたファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY\*FC211(L))、または Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY\*FC212(L))を搭載し、サーバ本体の BIOS 版数が 1.25.0 より新しい版数が適用された場合、システム起動時に保守ランプが点滅し、システムイベントログ(SEL)に下記の重度(Major)のエラーログが記録されます。本メッセージに伴う、サーバ本体及びファイバーチャネルカードの動作に問題はありません。

本エラーログの発生を回避するには、ファイバーチャネルカードのファームウェア版数を 3.29 以降へアップデートしてください。最新版は下記ダウンロードページを確認してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

[記録されるエラーログ]

```
CLP command to device in PCI slot [PCI スロット#] failed. Command not supported
CLP command to device [デバイス名][デバイス ID] failed. Command not supported
```

※ ログは POST (Power-On Self-Test: 電源投入時自己診断)中に複数記録されます。

尚、iRMC 8.13F 以降の場合には、重度(Major)のエラーではなく、情報(Info)としてログが記録されます。

## 21. ポート拡張オプション(10GBASEx2)(PY\*CN302U)、コンバージド・ネットワーク・アダプタ(PY\*CN302(L))をご使用時の制限事項

本製品で以下条件に当てはまる場合、本体装置の起動時にイベントビューアーの[Windows ログ]-[システム]に下記のエラーが記録されます。

条件 1: ポート拡張オプションの場合

- ① FCoE Personality でご使用の場合。且つ
- ② Twinax ケーブルを使用していない場合。且つ
- ③ ServerView Installation Manager 11.15.09 を使用して Windows Server® 2012 R2、Windows Server® 2012、あるいは Windows Server® 2008 R2 のオペレーティングシステムをインストールされた場合。

条件 2: コンバージド・ネットワーク・アダプタ搭載時の場合

- ① FCoE Personality でご使用の場合。且つ
- ② 10GBASE-SR SFP+が搭載されていない場合、あるいは Twinax ケーブルが接続されていない場合。且つ
- ③ ServerView Installation Manager 11.15.09 を使用して Windows Server® 2012 R2、Windows Server® 2012、あるいは Windows Server® 2008 R2 のオペレーティングシステムをインストールされた場合。

イベントビューアーに記録されるエラー

ログの名前(M)	システム	ログの日付(D)	2015/xx/xx xx:xx:xx
ソース(S)	elxcna	タスクのカテゴリ(Y)	なし
イベント ID(E)	11	キーワード(K)	クラシック
レベル(L)	エラー	コンピューター(R)	yyyyyy
ユーザー(U)	N/A		
オペコード(O)			

### 1) ServerView System Monitor からの、保守ランプ解除方法

ServerView System Monitor を起動し、下図の様に監視コンポーネントから対象のコンポーネントを確認し、リセット(赤枠)を押します。対象となる監視コンポーネントは下表の通りです。

項	監視コンポーネント(名称)	品名	型名
1	Emulex OCI14102-LOM	ポート拡張オプション(10GBASEx2)	PY*CN302U
2	Emulex OCe14102	コンバージド・ネットワーク・アダプタ	PY*CN302(L)



2) iRMC S4 からの、保守ランプの解除方法

iRMC S4 の[システム情報] - [ドライバモニタ]画面から、監視コンポーネントから対象のコンポーネントを確認し、ステータスのリセット(赤枠)を押します。



下記 URL より「コンバージド・ネットワーク・アダプタ Windows ドライバ v10.2.405.32」をダウンロードし、適用する事で本エラーを回避する事が可能です。

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviadownload?driverNumber=F1019406>

## 22. SAS コントローラカードをご使用時の HDD アクセス表示ランプについて

下表のベースユニットと SAS コントローラカード(PY\*SC3FA)を同時にご使用時、装置フロントパネルの HDD アクセス表示ランプは点灯いたしません。なお、HDD モジュール側の HDD アクセス表示ランプは点灯します。

装置	ベースユニット/ベイ追加オプション
PRIMERGY RX2530M1	PYR2531R3N ラックベースユニット (3.5 インチ)
	PYR2531R2N ラックベースユニット (2.5 インチx4)



フロントパネルの HDD アクセス表示ランプ

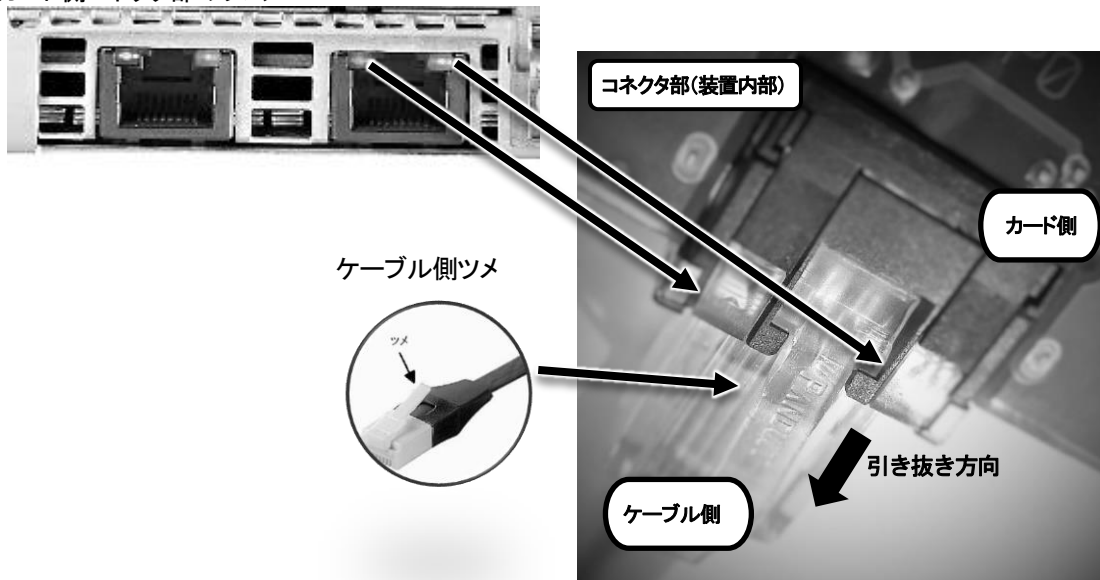


HDD モジュールの HDD アクセス表示ランプ

## 23. ポート拡張オプション(1000BASE-Tx2) (PY-LA302U/PYBLA302U)ご使用上の注意

ポート拡張オプション(1000BASE-Tx2)から LAN ケーブルを取り外す際に、ケーブル側ツメを押下せずに引っ張ったり、押下が不十分な状態で引き抜いたりするとカード側コネクタ部のツメが破損しロックが効かない状態になりますので、ケーブル側ツメが、カード側ツメと干渉していない事を確認した上で、装置背面と垂直な方向へ引き抜く様をお願いいたします。

<カード側コネクタ部のツメ>



本ポート拡張オプションの対象装置における筐体背面のコネクタ位置は、下記の通りとなります。

[RX2530 シリーズの場合]



## 24. Blu-rayドライブご利用時の留意事項について

オンボード SATA RAID を構成し Blu-rayドライブを搭載した環境において、Live File システムを利用する場合には、BD-RE(Blu-ray Disc Rewritable)メディアをご利用ください。BD-R(Blu-ray Disc Recordable)メディアはご利用になれません。

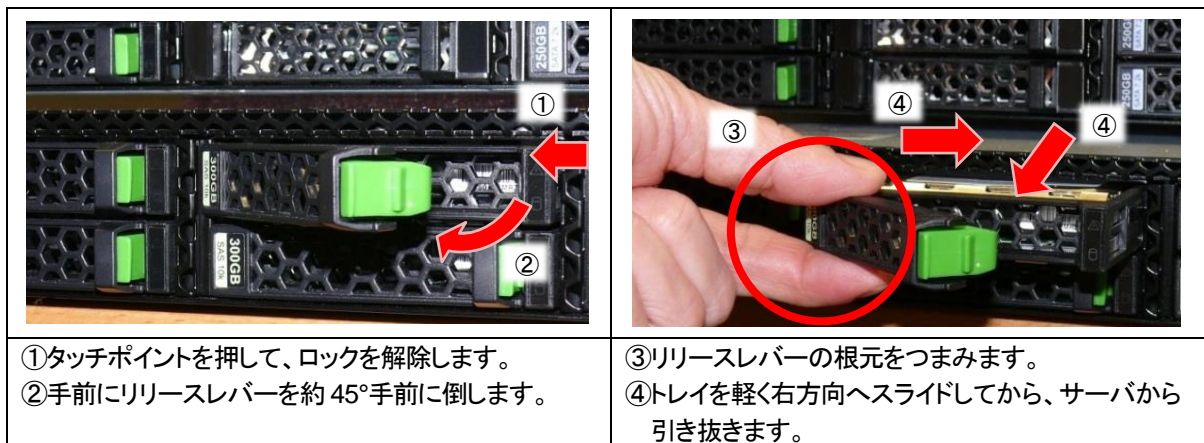


## 25.2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意について

2.5 インチ HDD / SSD を取り外す際に、下図の A の部分のフックがかかっているため抜けづらいことがあります。その際、HDD/SSDトレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。



取り外しにくい場合は、上右図 B の方向に無理に力を加えるのではなく、下記の手順を参考に取り外してください。



※ トレイをスライドしても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。(HDD/SSD を元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSD を引き抜いてください。)

## 26. 起動時に記録されるエラーログに関する留意事項

サーバ起動時に、稀に以下のエラーログが、システムイベントログ(SEL)に記録されることがあります。本エラーに伴う、サーバ本体の動作への問題はありません。

Legacy PCI Target Abort Bus: 0 Device: 0x00 Function: 0x00

## 27. Linux 製品 ご使用時の設定

PCI スロット 4 を使用するには論理 CPU 数を 9 個以上の構成にする必要があります。  
論理 CPU が 8 個以下の場合、利用できないインターフェース機能が発生する場合があります。

## 28. 電源投入後のビープ音について

ポート拡張オプション(PY\*LA302U / PY\*LA304U / PY\*LA3A2U / PY\*CN302U / PY\*LA3A2U2)のファーム版数が 11.1.172.23 以降の場合、電源投入後の POST 時に数秒間ビープ音が発生する場合があります。本ビープ音に伴う、サーバ本体及びポート拡張オプションの動作に問題はありません。

## 29. ブートデバイスとして使用するカードが搭載される PCI スロットの設定について

ブートデバイスとして使用するカードが搭載されている PCI スロットのみ Option ROM Configuration を Enabled にしてご利用ください。

### 30. 省電力動作モードを使用時の注意事項について

省電力動作モードを有効にしてご使用の場合、稀に CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。(ただし、ハードウェア故障や BIOS 版数が低い場合を除きます)

BIOS 設定の [Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology] を "Custom" (初期設定値: Energy Efficient) にし、下記のように設定してご使用ください。

- ・ Enhanced SpeedStep : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ Turbo Mode : "Disabled" (初期設定値: Enabled) ※
- ・ CPU C1E Support : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ CPU C3 Report : "Disabled" (初期設定値: Disabled)
- ・ CPU C6 Report : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ Package C State limit : "C0" (初期設定値: C6)

※ Enhanced Speedstep が "Disabled" のままだと Turbo Mode の設定が有効にならず、変更ができないため、以下の手順で変更してください。

- ・ いったん、Enhanced SpeedStep を "Enabled" に変更する (既に Enabled の場合は不要)
- ・ Turbo Mode を "Disabled" に変更する
- ・ Enhanced SpeedStep を "Disabled" に変更する

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 の場合:

① /etc/grub.conf ファイルの kernel 行に "intel\_idle.max\_cstate=0" カーネルパラメータを追加します。

② システムを再起動し、設定を反映させてください。

Red Hat Enterprise Linux 7 の場合:

① /etc/default/grub の GRUB\_CMDLINE\_LINUX 行に  
"intel\_idle.max\_cstate=0 processor.max\_cstate=0"  
を追記してください。

② 以下コマンドを実行し設定値を反映

■ BIOS モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

■ UEFI モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg
```

※ 使用環境によって実行するコマンドに差があります

③ システムを再起動し、設定を反映させてください。

SUSE Linux Enterprise Server 12 の場合:

① /etc/default/grub の GRUB\_CMDLINE\_LINUX 行に  
"intel\_idle.max\_cstate=0 processor.max\_cstate=0"  
を追記してください。

② 以下コマンドを実行し設定値を反映

BIOS モード/UEFI モード両方とも

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

※ 使用環境によって実行するコマンドに差があります

③ システムを再起動し、設定を反映させてください。

### 31. VMware ESXi をご利用のお客様へ

・一部ネットワークカードの省電力モードについて

Energy Efficient Ethernet(省電力型イーサネット技術)機能を保有した下記型名の LAN カードにてドライバが当該機能を有効と設定していた場合に、接続先のスイッチの当該機能の有/無および有効/無効に関係なく、稀に、CPU IERR、PSOD、Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。

PY-LA262(型名:PYBLA262/PYBLA262L 含む)

PY-LA264(型名:PYBLA264/PYBLA264L 含む)

LAN ドライバの設定にて、Energy Efficient Ethernet(省電力型イーサネット技術)機能を無効化してください。

・ESXi 5.0/5.1/5.5/6.0U2 以前の場合

1)以下のコマンドを実行します。

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "EEE=<igb ポートに対する設定値>"
```

[設定値]

0: EEE 無効

1: EEE 有効

実行例)

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "EEE=0,0,0,0"(*)
```

\* コマ(,)で区切ったリストは、「PCI バス番号」の小さいポートから

順番に、省電力イーサネット機能を無効化するポート毎に指定します。

今回の例は、PY-LA264(4 ポート)が 1 枚搭載されており、igb ポートが 4 つあることを前提にしているため、0(無効)を 4 つ指定しています。

なお、「PCI バス番号」とは、esxcfg-nics -l の出力結果が以下の時、PCI 列直下の値(例: vmnic1 の場合:0000:03:00.00)です。

Name	PCI	Driver	---
vmnic1	0000:03:00.00	igb	---
vmnic2	0000:03:00.01	igb	---
vmnic3	0000:03:00.02	igb	---
vmnic4	0000:03:00.03	igb	---

今回の例では vmnic1 の PCI バス番号が一番若いため、最初の 0 が vmnic1 に対する設定であり、2 番目に若い vmnic2 に対する設定が 2 番目の 0 となります。

(補足)ESXi シェルの有効化手順および SSH 接続の許可手順は次の VMware 社 Knowledge Base を参照してください。

『VMware Knowledge Base 2004746』

<https://kb.vmware.com/kb/2004746>

2)システムを再起動します。

### 32. アップグレード&メンテナンスマニュアルの表記について

アップグレード&メンテナンスマニュアルの 10.1.1 項(p.228)に記載のメモリスロット搭載順序に誤りがありますのでご注意ください。

誤: 2つのプロセッサ構成の場合、次に、メモリスロット 1/ チャンネル D(DIMM 1D)を取り付けます。

正: 2つのプロセッサ構成の場合、次に、メモリスロット 1/ チャンネル E(DIMM 1E)を取り付けます。

### 33. ツイストペアケーブルの除電について

ツイストペアケーブルは、ご使用の環境などによって、静電気が帯電することがあります。静電気が帯電したツイス

トペアケーブルをそのまま機器に接続すると、機器または機器の接続ポートが誤動作したり、壊れたりすることがあります。  
接続する機器に接続する直前に静電気除去ツールなどをご使用いただき、ツイストペアケーブルに帯電している静電気をアース線などに放電して接続してください。  
また、静電気を放電したあと、接続しないまま長時間放置すると、放電効果が失われますのでご注意ください。

### 34. Red Hat Enterprise Linux 7 ご利用のお客様へ

VT-d を無効にしてご使用の場合に、“No irq handler for vector (irq -1)”のメッセージが出力されることがあります。  
BIOS 設定の[Advanced]-[CPU Configuration]-[VT-d]を“Enabled” (初期設定値: Enabled)にてご使用ください。

— 以上 —